

東京メトロポリタンテレビジョンでは、15年前から運用してきた第1スタジオ、ニューススタジオをリニューアルし、第2スタジオを新設しました。照明設備は小型かつ効率性の高いLED器具を採用し、フルLED化で、コスト面・機能面ともに長期安定運用を見据えたシステムを構築しました。

2025年に開局30周年を迎える東京メトロポリタンテレビジョン。東京ならびに隣接する周辺地区にも視聴者をもつテレビ放送局で、自社制作の多彩なバラエティや情報番組をはじめアニメ、ドラマ、映画、他局との連携番組など幅広いラインアップで支持されています。キャッチコピーは30周年に向けて新たに「どこまでも! マニア9。」を設定。



【物件概要】  
所在地：東京都千代田区麹町1-12  
施主：東京メトロポリタンテレビジョン(株)  
設計：鹿島建設(株)  
施工：鹿島建設(株)



第1スタジオ 照明器具はLEDスポットライト①②、LEDブロードライト③、LED水平ライト④⑤などを採用。汎用性の高い照明演出が可能で、「5時に夢中!」などを放映。



第2スタジオ 第1スタジオと同じシステム構成、照明器具①②③④⑤を用いスタジオの冗長性を強化。



ニューススタジオ スタジオのリニューアルにより制作環境が向上。



調光操作卓⑥ RDM双方向通信により照明器具を自動認識し、効率化を実現。タブレット導入で業務を効率化。UVish⑦で空間を除菌・脱臭

バックアップ機能により冗長性を強化することで、多彩な演出が可能。

今回スタジオのリニューアルと新設は、主に番組の演出やオンエア方法の柔軟性を高め制作環境を向上させると同時に、冗長性をもたせることを目的としています。汎用性の高いLEDスポットライト、LEDブロードライトのフルLED化で多彩な照明演出が可能になり、電気使用量をはじめとするランニングコストを削減しました。第1、第2スタジオは同じシステム構成、照明器具となっており、相互運用が可能でバックアップ機能を強化しています。調光操作卓には画面タッチで調光や調色などを感覚的に操作できるスマートコンソールを採用し、RDM双方向通信によって照明器具

の状態把握やアドレス設定など計画的な運用を可能にしています。また調光操作卓と同じ操作が可能なタブレットを導入し、オペレーション業務の効率化を実現。上階にある技術局ではイーサネット™により移動することなくモニターで器具状態をマネジメントできます。このほかCADとシミュレータを連携させ3次元での照明プランニングや演出シミュレーションを設計できるソフトウェアを導入しライティングの品質向上に貢献。局の規模に合わせ、小型かつコンパクトで高機能なシステムにより様々な年代、スキルのオペレーターが柔軟に使用できる環境になりました。

主な搭載器具一覧 設置場所	器具名 (品名)	形名	台数	備考
第1スタジオ 第2スタジオ ニューススタジオ	① LEDスポットライト6型フレネル ハロゲン500W~1kW置き換え	AL-LED-FSH6-W	55	消費電力:115W
	② LEDスポットライト8型フレネル ハロゲン1kW~2kW置き換え	AL-LED-FSG8-W	14	消費電力:246W
	③ LEDブロードライト ハロゲン1kW置き換え	AL-LED-BRHT-W	50	消費電力:228W
	④ フルカラーLEDアッパー・水平ライト	AL-LED-UH-SR1	11	消費電力:192W
	⑤ フルカラーLEDローア・水平ライト	AL-LED-LH-SR1	5	消費電力:192W
	⑥ 調光操作卓 Smart Console	SC-30	2式	—
	⑦ ウイルス抑制・除菌脱臭用UV-LED光触媒装置 UVish 据置・卓上タイプ	CSD-B03	5	消費電力:静音13W、標準14W、パワフル16W(100V) 消費電力:188W
	LEDロケーションライト UNI-SOL	—	4セット	—
	調光操作卓 フェーダボックス	AL-TRDM-FB18	1	—
	照明主幹電源制御盤	—	2式	—
	照明制御電源盤	—	1式	—
Vectorworks Spotlight X Vision	—	1式	—	

※イーサネット™は、富士フイルムビジネスソリューション株式会社の登録商標です。